

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	肝内胆管癌の腫瘍リンパ管新生機構の解明			
2. 対象患者	2000年から2017年の間に、当科において肝内胆管癌に対して手術をされた方			
3. 対象となる期間	倫理委員会承認日～令和5年3月31日			
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科			
5. 研究責任者	氏名	脇屋 太一	所属	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)				
7. 研究の意義	<p>肝内胆管癌は予後不良の疾患です。特にリンパ節転移症例の治療成績は著しく不良で、外科手術、化学療法、放射線療法などを駆使した既存の治療戦略では、その成績の向上が困難な現状です。よって、リンパ行性転移の制御を念頭に置いた新規治療法の確立が急務です。</p> <p>近年、リンパ行性転移と腫瘍リンパ管新生の密接な関連が明らかとなりました。更に、腫瘍リンパ管新生の過程を阻害する抗リンパ管新生療法が開発され、リンパ行性転移を予防する戦略として期待されています。現在、大腸癌などでは臨床試験が実施される段階にあります。肝内胆管癌においては基礎的知見が不足しており、その実現には至っていません。したがって、肝内胆管癌における腫瘍リンパ管新生機構を解明することは、肝内胆管癌に対する抗リンパ管新生療法の確立に必須であると考えます。</p>			
8. 研究の目的	肝内胆管癌における腫瘍リンパ管新生機構を解明することを本研究の目的とします。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	通常診療の範囲内で得られた既存の情報、試料を解析します。介入を行わず、新たに試料採取は行いません。カルテを利用し、病歴、年齢、性別、血液検査、画像検査、手術関連情報、病理検査などの情報を使用します。また、既存の組織中の蛋白発現を評価します。			
10. 個人情報の保護	患者さんの名前をふせて(匿名化)、臨床情報を使用します。匿名化するための対応表は保護をして講座内に保存されます。患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外します。参加同意を拒否しても、当科での診療において何ら不利益を受けません。			
11. 利益相反に関する状況	本研究は通常の診療範囲内で行われるため、特別な資金源を必要とするものではありません。起こり得る利益相反について特記すべき事項はありません。			
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科 脇屋太一			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080